

「本会について」

親と子学び育ちの会まねき neko は、「地域に理解者を増やしたい、にぎわいからこぼれる子どもをなくしたい」という思いで、2016年4月にお母さんたちが立ち上げた子育てサークル団体です。

その思いを少しでも共有してくださる方が、その子らしさ、その人らしさを大切に、人を呼び・仲間を呼び、新しい情報を取り入れ時代の変化に馴染みながら、陽だまりの中でくつろぐ猫のように安心して暮らせる地域をつくりたいという思いを込めて「親と子学び育ちの会 まねき neko」と名付けました。

親と子学び育ちの会まねき neko（通称-まねき neko）は、「当該児・者」「保護者」「支援者」「有識者」が集い「こどもの居場所」「学びの場・交流会」を通し、彩のあるやさしい未来をつくるために「障がい児・者理解促進事業」「こども未来応援事業」「信州こどもカフェ」を行なっています。

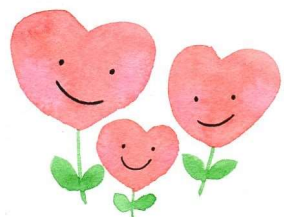
「こども未来応援事業」は、こども^{*1}を中心にしつつも全世代型の交流を目指しています。どの様なお子さんでも「学びたい」と思ったら、その学びを応援してくれる理解者が必要です。こどもの育ちには多様な大人の関わりが重要と考え、居場所は集う人々の多様性を尊重しつつ、こども・大人たち^{*2}が大事にしている「想い」を、汲み取り「こどものやってみたい」を一番に考え活かしていきたいと思えます。

「こどもカフェ」は、高校生・大学生までを重点的に支援する対象とします。食事や食糧支援はもちろんですが、世の中に余っている物を無駄なく使うSDGs活動を取り入れ、ボランティアの皆様にご協力いただき、誰もが参加しやすい交流の場を共につくっていきます。

「障がい児・者理解促進事業」は長野県障がい者共生条例（障がいのある人もない人も共に生きる長野県条例）に沿って活動を行います。毎年県が実施する発達障害啓発週間「結」プロジェクトに参加し幼少期の必要な支援の紹介、当該児・者の自立と社会参加の機会、社会的障壁を取り除く取り組みに協力していきます。

こども^{*1}：社会参加する前の学生までを「子ども」としています。

大人たち^{*2}：活動に賛同していただいた一般の方、協力者を指します。



地域共生社会を目指して

年齢や障害の有無にかかわらず「地域で安心して豊かな暮らしをしていくために」3つのポイント

- ① 「教育・医療の情報共有」- 成長や発達には個人差があります。学校教育において児童及び生徒がその発達段階と特性並びに本人の意思に応じて学びの場と進路の選択ができます。医療・介護では治療、療育など日々研究がなされ、個人のニーズに合わせ必要な支援が包括的かつ継続的に提供されるよう施策が講じられています。



常に新しい情報を取り入れ、子ども自身が選択肢を持つことが必要です。

- ② 「自助・共助」- 自立とは…当該児・者の意思を真ん中にしながら多機関と繋がり、支援先を多く持つことによって「安心でき、豊かな日常生活」が実現します。また、ちょっとしたお手伝いから専門的な支援まで幅広いサポートの場で支援する側も負担感が少なく「助け合い（共助）」しやすい環境が生まれます。



幼児期から、家庭、地域、学校、職域その他の様々な場において共同活動の場に参加し顔を（自分を）知ってもらいましょう

- ③ 「地域の理解者を増やす」-顔見知りから 一歩先へ 日頃のちょっとした見守りや、災害などの緊急時の対応に備え地域の力と繋がるのが大切です。

『障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例』

令和4年3月24日 長野県条例第14号

（抜粋）全ての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、支え合い、活かし合う社会の実現に寄与することを目的とする。

あいサポートバッジ（あいサポート運動シンボルマーク）

「あいサポートバッジ」とは、あいサポーターのシンボルバッジです。



2つのハートを重ねて、後ろの白いハートで「SUPPORTER（サポーター）」の「S」を表現しています。ベースとしている「橙色（だいだいいろ）」は、日本の障がい者福祉に尽力された糸賀一雄氏の残した言葉「この子らを世の光に」から「光」や、「暖かさ」をイメージするものとしています。また、「だいだい（代々）」にちなみ、あいサポーター（障がい者サポーター）が広がって、共生社会が実現されることへの期待も込められています。